

## 令和6年度使用教科用図書採択

### 第4回枚方市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

---

1. 日 時：令和5年7月11日（火）9時00分～12時00分

2. 場 所：輝きプラザきらら3階 教育委員会室

#### 3. 出席者

##### (1)選定委員

さいとう ひろし  
齋藤 博 学校教育部次長兼学校教育室長

かばやま さ ゆ り  
椛山 佐由里 枚方市立第二中学校長

そがわ み き  
十川 美樹 枚方市立香陽小学校長

むらかみ とおる  
村上 徹 枚方市立桜丘中学校教頭

はっとり ようすけ  
服部 陽介 枚方市立樟葉小学校教頭

まきむら たけし  
牧村 剛 枚方市PTA協議会代表

くりむら ゆ み こ  
栗村 由美子 枚方市PTA協議会代表

##### (3)事務局

くつぬぎ よしこ  
沓 拔 淑子 学校教育部 教育指導課 主幹

こうさか ともみ  
上坂 友美 学校教育部 教育指導課 主幹

たなだ じゅんご  
棚田 惇 基 学校教育部 教育指導課 主幹

#### 4. 配付書類・資料

(1) 第4回選定委員会次第

(2) 第1回選定委員会配付資料一式

(3) 第2回選定委員会配付資料一式

(4) 資料1：第3回、第4回選定委員会種目別調査員代表説明予定表

- (5) 資料2：令和6年度使用教科用図書（小学校）調査の報告について
- (6) 資料3：令和6年度使用小学校用教科書の見本本について
- (7) 資料4：教科書センターの閲覧者の意見【各種目】

## 5. 次第

- (1)開会の挨拶
- (2)令和6年使用小学校教科用図書採択に係る調査員報告
- (3)令和6年度使用小学校教科用図書採択に係る選定審議
- (4)その他
- (5)閉会の挨拶

## 6. 会議内容

- (1)開会の挨拶

[齋藤委員長]

- ・只今より、令和6年度使用小学校教科用図書採択に係る第4回教科用図書選定委員会をはじめ。

[齋藤委員長]

- ・本日は昨日の第3回選定委員会に引き続き、道徳、理科、図画工作、保健、家庭、生活の調査員の代表に、この選定委員会の場へ出席いただき、全発行者の教科書について、調査結果の報告を受ける予定である。本日も、その調査員の報告に基づき審議を行ったうえで、教育委員会への意見を答申としてまとめる、きわめて重要な会議となる。学習指導要領の目標、内容を踏まえ、本市の児童にとって最適な教科書はどれかという視点で審議を行い、教育委員会で採択を行うにあたっての有効な意見をまとめていきたい。活発な発言をよろしく願いたい。

[齋藤委員長]

- ・それでは、只今より審議に入るが、少し時間をとり、資料3の学校からの意見書及び、資料4教科書センターでの閲覧者の意見をご覧頂きたい。

[教科書担当]

- ・昨日も見ていただいたが、学校からの意見書、および教科書センターの閲覧者の意見は、このようにまとめているため、回覧いただきたい。なお、要望書については、前回の紹介より、その後2通届いているため、こちらも合わせて回覧する。この後9：15より、調査員代表から調査報告を受けていただき、審議のうえ、答申の内容をまとめていただく。なお、本日も公正確保のため、配付資料につきましては、会議終了後、回収させていただく。

[齋藤委員長]

- ・それでは審議に入る。この後については、昨日と同様に①学習指導要領の目標並びに内容を基本

とし、府の選定審議会資料を活用しながら、よい特徴の事実列記と記載するかたちで作成された調査員報告書などをご覧いただきながら、調査員代表による説明を約10分受けていただく。説明後、質疑を行っていただき、各自ご意見を整理していただきたい。②調査員退室後、さまざまな角度から皆さまのご意見をいただき、選定委員会としての一定の見解を出していきたいと考えている。③可能な限り全委員一致でまとめていきたいと考えている。④種目の説明の順番については、資料①第3回、第4回選定委員会種目別調査員代表説明予定表のとおりに行う。

(2) 令和6年使用小学校教科用図書採択に係る調査員報告及び

(3) 令和6年度使用小学校教科用図書採択に係る選定審議

**【種目名 道徳】**

[齋藤委員長]

- ・調査員代表の入室を認める。

<道徳 調査員代表 枚方市立明倫小学校長 嶋田 崇 入室>

[齋藤委員長]

- ・調査結果について、報告をお願いします。

<調査員より調査報告書に基づき報告>

[齋藤委員長]

- ・ただ今の報告の中で、質問はないか。

[椋山委員]

- ・学習指導要領では、「考える道徳」「議論する道徳」への転換が図られ、発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童が自分自身の問題と捉え、向き合うことが求められている。「1. 目標・内容の取扱い」の説明において、教材の冒頭部分の違いを報告されたが、道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉える授業を展開する上で、主題等を示すことについて、どのようなねらいがあると考えられるのか。説明を願う。

[調査員代表]

- ・教材の冒頭の主題に関することについては、示されている発行者5社と、示されていない発行者「学研」に分けられる。児童が本時に何を学ぶかの見通しをもって考えることができるよう、学習の手掛かりとして教材の主題を示しているか、教材を生かした授業ができるよう、示していないか、発行者のねらいがあると考えられる。報告した通り、教材に入りこませるためや、内容の理解を助けるために、発行者によっては、「問いかけ」「リード文」などもある発行者があります。東京書籍は主題のみ、学研はキーフレーズのみと、あまり先入観を持たせないシンプルな冒頭部分となっている。

[齋藤委員長]

- ・いじめの未然防止、早期発見、早期解決は学校現場の喫緊の課題であり、そのためにも道徳の授業をより良いものにしていく必要がある。いじめについて自分の行動を見つめ、振り返りながら考えることができる一方で、多面的・多角的な見方へと発展することが大切であると考え。いじめ防止に係る観点で見たときに、各発行者の教科書にどのような特徴が見られるのか、具体的な説明を願う。

[調査員代表]

- ・どの発行者も、全学年いじめについて取り扱われている。東京書籍は、いじめの場面を直接的に扱う教材と、関係する価値から間接的に考える教材、コラム「つながる・広がる」を組み合わせたユニット構成がされており、多面的・多角的にいじめの防止について考えられるように工夫されている。教育出版、光村図書、日本文教出版においても、重点テーマ、教材とコラム等、同様にユニット構成がされ、また、日本文教出版、光文書院は、直接的教材・間接教材として多面的・多角的な視点等で考えられるよう工夫されている。学研は、年間を通してバランスよく「いじめ防止」に関連する教材、様々な内容項目の教材を配置し、いじめを生まない心について、多面的・多角的な視点から自分との関わりで考えを深められるよう工夫されている。

[十川副委員長]

- ・道徳の目標は「よりよく生きるための基礎となる道徳性を養う」こととなっており、そのためには物事を多面的・多角的に考えるために、自分と友達の考えを比べて考えるといった「協働的な学び」の実現が求められると同時に、自己の生き方について考えを深めるためにも、「個別最適な学び」の充実が必要だと考える。そのために多くの発行者が二次元コード等を活用し、資料や動画を掲載していると思われる。児童自らが学びを深めていくことができ、自己の意見を形成するための有効的な工夫がある発行者はどこか。具体的に例を挙げて説明願う。

[調査員代表]

- ・二次元コードの数については、大阪府の選定資料より、東京書籍は 293、教育出版は、349、光村図書は、164、日本文教出版は、249、光文書院は 64、学研は、70 とあり、特に掲載数が多いのは東京書籍、教育出版、日本文教出版である。本調査では、あくまで二次元コードは、「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」の一部としてとらえている。全ての教科書において、動画や資料などを掲載することで、個別最適な学びの充実を図れるよう工夫されている。たとえば学研（6年 p 50）ここで取り上げられている「おどり」は、写真だけでなくおどっている様子を見ることでよりこの踊りにかける人々の思いや熱意を感じられる。こうした工夫が各発行者に見られる。

[服部委員]

- ・本市においては、「幼保こ小架け橋プログラム」に昨年度から取り組み、5歳児から小学1年生までの2年間における枚方版架け橋カリキュラムを開発している。各校区においても小学校と就学前施設の交流が活発化している。このような観点で見たとき、1年生の教科書に配慮等がなされているのか。特徴のある発行者はどれか、具体的な例を挙げて説明を願う。

[調査員代表]

- ・どの発行者も、絵や写真を中心とした教材等、配慮をしている。特色のある発行者として、東京書籍では、(p 10 から 23) 二次元コードをなくし、1年生の入門期には文章量を減らした教材にしている。「考えよう」などの「問い」もない。「つながる ひろがる」においても、絵本の紹介など、入門期の配慮がされている。光村図書では、(p 6 から 15) 1年生の入門期には文章量を減らした教材にしている。同じく、二次元コード、「考えよう・話し合おう」のような「問い」もない。

[椋山委員]

- ・教科書を用いて学んでいくためにも、児童が抱える学習上の困難さの状況を踏まえた配慮が必要であると考え。様々な背景や環境のもとで育ってきた児童がいることや、そもそも小学校1年生から6年生まで6年間を通して行う教科であることなどから、「全ての児童にとって学びやすい」という点は道徳の教科書においてとても大切な観点だと考える。その点において特徴のある発行者はどれか、具体的な例を挙げて説明を願う。

[調査員代表]

- ・特色ある教科書としては、東京書籍では、1年生の最初の教材を除く、すべての教材で朗読音声と「紙芝居」などを掲載することで、個別最適な学びを充実させ、例えば、障がいのある児童や外国人児童などに対して、朗読だけでなく、紙芝居「スライドショー」の絵で説明できることで、児童の特性に合わせた教材提示の方法を選択でき、個別最適な学びの充実を図っている。

[齋藤委員長]

- ・本市の児童にとってふさわしい教科書を2社程度あげるとすると、どのようになるか。

[調査員代表]

- ・大変難しい。どの観点到規準を置くかによってよい教科書が変わってくるからである。2社程度あげるとすると、今説明した内容も含めて、6つの項目で総合的に良い点が多くあった教科書を示すことになる。この観点で選ぶと、東京書籍、光村図書、学研の3社が総合的に良い点が多い教科書として拮抗していた。

[齋藤委員長]

- ・その中で強いて1社あげるとすると、どの発行者になるか。その大きな理由は何か。

[調査員代表]

- ・総合的に良い点が多い点からすると、シンプルな導入、人権的な配慮、1年生の入門期を含めたスタートカリキュラムへの対応、二次元コードなど、総合的なバランスを考えると東京書籍と考えますが、先ほど申し上げた通り、どの観点を重視するかで変わってくる。実際は、3社とも甲乙つけがたい状況であったことを重ねて申しあげておきたい。

[齋藤委員長]

- ・他に質問はないか。

[齋藤委員長]

- ・調査員代表、ありがとうございました。

<調査員代表 枚方市立明倫小学校長 嶋田 崇 退室>

[齋藤委員長]

- ・先ほどの調査員代表からの報告や質疑応答、調査報告書等を踏まえて、何か確認しておくことはないか。

<なし>

[齋藤委員長]

- ・全ての発行者において、児童と同じ年頃や親しみを持てる登場人物を描いた教材、様々な分野で活躍する著名人、水泳の「池江」選手などのスポーツ選手などの教

材が取りあげられており、自己の生き方について、児童が深く考えることができるよう内容項目が工夫されて取り扱われていることが分かった。一方で教材の冒頭に主題に関することが書かれている発行者と、キーフレーズのみで学研とで、分かれていた。東京書籍は総合的なバランスがとれているものの、光村図書については入門期の学習への配慮が見られた。学研は年間を通してバランスよく「いじめ防止」に関連する教材が扱われている特徴が見られた。他の発行者にもよい特徴がそれぞれあるので、その辺りも併せて教育委員会に答申する。異議はないか。

<異議なし>

[齋藤委員長]

- ・他の発行者の特徴も含めて答申する。

**【種目名 理科】**

[齋藤委員長]

- ・調査員代表の入室を認める。

<理科調査員代表 枚方市立氷室小学校長 矢島 義嗣 入室>

[齋藤委員長]

- ・調査結果について、報告をお願いします。

<調査員より調査報告書に基づき報告>

[齋藤委員長]

- ・ただ今の報告の中で、質問はないか。

[服部委員]

- ・学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められているが、児童が学習に主体的に取り組む場面、対話を通して考えを深める場面の設定において、特に工夫がされている発行者があれば、具体的に例をあげて説明願う。

[調査員代表]

- ・どの発行者においても、理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するような工夫が見られる。特に、対話について各発行者において、キャラクターが話し合いの活動をする場面を多用し、協働的な学びを推進している。中でも、大日本図書では、多くの活動の場面（6年107-110ページ）において、話し合いの活動を設定し、挿絵によって表現されている。啓林館では、単元の初めに「初めに考えよう」という単元全体の発問をし、単元終わりにも同じ問いかけをすることで、対話を通して学びの深まりを実感できるよう工夫している。また、二次元コードを活用し、動画や資料、スマート解説などを必要な場面で児童が選択して活用できるようになっており、

主体的な取組につながっている。

[村上委員]

- ・学習指導要領においては、理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連が重視されている。日常生活や社会との関連に関して、各発行者の特徴を、具体的に例をあげて説明願う。

[調査員代表]

- ・各発行者、単元ごとに日常生活や社会に関連する発展的な内容を取り扱っているが、東京書籍では「こんなところにも！」（6年生45ページ）というコーナー、大日本図書では「理科のたまてばこ」や「Science World」（6年生52ページ）、学校図書では（6年生151～153ページ）「もっと知りたい」というコーナーが該当する。教育出版では「科学のまど」や「資料」（6年生169ページ）で、SDGs マークなども掲載しながら日常生活や社会に関連する発展的な内容を取り扱っている。啓林館では「くらしとリンク」（6年生113ページ）や「with the Earth」（6年生144ページ）などになる。

[樫山委員]

- ・各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されていることは、教える側にとっても、学ぶ側にとっても大切なことである。他教科との関連も含め、この点において工夫がみられる発行者があれば、具体的に例をあげて説明願う。

[調査員代表]

- ・各発行者、教科横断的な視点での取り扱いはあるが、特に東京書籍、教育出版、啓林館の3社については、巻末に算数との関連について大きく取り扱っている。東京書籍は「算数で学んだことを活用しよう」（6年195ページ）、教育出版は「算数とのつながり」（6年217ページ）啓林館は「理科につながる算数のまど」（6年210ページ）、になる。

[十川副委員長]

- ・小学校におけるプログラミング教育では、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付ける学習活動を計画的に行うことが重要とされている。また、学習指導要領では、「小学校段階での理科で重視してきた問題解決の過程において、プログラミング的思考の育成との関連が明確になるように、適切に位置付けられるようにするとともに、実施に当たっては、児童一人一人の学びが一層充実するものとなるように十分配慮することが必要である」と示されている。この点において、特徴のある発行者はどれか。具体的に例をあげて説明願う。

[調査員代表]

- ・各発行者、プログラミングの取り扱いがあるが、その中でも、全学年において特にプログラミング

教育を意識して掲載しているのは、東京書籍と啓林館になる。東京書籍では全学年の巻末「理科とプログラミング」で、啓林館では「やってみよう！プログラミング」というコーナーで、取り扱っている。

[齋藤委員長]

- ・本市の児童にとってふさわしい教科書を2社程度あげるとすると、どのようになるか。

[調査員代表]

- ・報告した6つの調査項目と観点に本日質問があった観点を加味し、内容の取扱い、人権の扱い、単元の配列、掲載されている写真や資料、活用できるデジタルコンテンツなど、学習活動に関わる教材の質と量のバランスを総合的に考慮して、東京書籍と啓林館がふさわしいのではないかと考える。

[齋藤委員長]

- ・その中で強いて1社あげるとすると、どの発行者になるか。その大きな理由は何か。

[調査員代表]

- ・先程申し上げた2社の中で強いて1社あげるとすれば啓林館になる。各社とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材や内容の取扱いについて突出した過不足はない。その中で、あくまでも学習活動の当事者である児童の視点に立って、考えると内容の取扱い、演習問題や学習のながれのわかりやすさ、主体的・対話的で深い学びが実現するように工夫されているか等において、啓林館が良いと考える。また、一人一台端末を活用した学習活動下において、二次元コードやデジタルコンテンツなども活用しやすいと感じた。

[齋藤委員長]

- ・他に質問はないか。

<なし>

[齋藤委員長]

- ・調査員代表、ありがとうございました。

<理科調査員代表 枚方市立氷室小学校長 矢島 義嗣 退室>

[齋藤委員長]

- ・先ほどの調査員代表からの報告や質疑応答、調査報告書等を踏まえて、何か確認しておくことはないか。

<なし>



[齋藤委員長]

- ・啓林館は、先生方の視点はもちろんだが、何よりも学習活動の当事者である児童の視点に立って考えると、内容の取扱い、演習問題や学習のながれのわかりやすさ、主体的・対話的で深い学びが実現するように工夫されているか等において優れており、理科の見方・考え方を働かせ、力をつけるには、適した教科書であると考ええる。他の発行者にもよい特徴がそれぞれあるので、その辺りも併せて教育委員会に答申する。異議はないか。

<異議なし>

[齋藤委員長]

- ・他の発行者の特徴も含めて答申する。

**【種目名 図画工作】**

[齋藤委員長]

- ・調査員代表の入室を認める。

<図画工作 調査員代表 枚方市立平野小学校長 虎杖 利和 入室>

[齋藤委員長]

- ・調査結果について、報告をお願いします。

<調査員より調査報告書に基づき報告>

[齋藤委員長]

- ・ただ今の報告の中で、質問はないか。

[服部委員]

- ・図画工作においては、特に絵や立体、工作などに表す際、児童自身が表現したいことを見付けられる題材設定が大切である。この点から考えても、子どもたちがより、主体的に学ぶための工夫が必要だと考えるが、各発行者の教科書では、どのような特徴が見られるか。説明を願う。

[調査員代表]

- ・開隆堂出版1・2年上巻20・21ページにて。開隆堂出版では、キャラクターをもちいて、めあてのヒントを示し発想を支援するとともに、吹き出しで表現の工夫や見方の支援をしている。様々な発想に基づいた作品を掲載し、発想を広げることや多様な表現の可能性を広げることにつなげている。日本文教出版1・2年上巻20・21ページにて。日本文教出版では、電球マーク等をもちいて、めあてのヒントを示し発想を支援するとともに、吹き出しで表現の工夫や見方の支援をしている。様々

な発想に基づいた作品を二次元コード上にも掲載し、発想を広げることや多様な表現の可能性を広げることにつなげている。

[十川副委員長]

- ・ 図画工作の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する」ことである。児童が図画工作の学習が日常生活につながっていることを感じとることができるよう、各発行者がどのような工夫を行っているのか、具体的に教えてほしい。

[調査員代表]

- ・ 開隆堂出版の5・6年下巻54・55ページ「人とともに未来をつくる」では、図画工作の学習が、人とともに新しい未来をつくる力につながることを紹介している。日本文教出版の5・6年上巻36・37ページ「どんなことをどんな方法で」では、言葉では伝えられない、伝わりにくいことを形や色を活用して伝えることができることを紹介している。

[村上委員]

- ・ 自分の考えを広げたり深めたりする場面では、言語活動を一層充実することが重要になる。言語活動という観点でみたとき、各発行者の教科書ではどのような特徴があるか。具体的な例をふまえて、説明願う。

[調査員代表]

- ・ 開隆堂出版の1・2年下巻22・23ページ「ふたりはなかよし」では、友だちと協力して、形・色・言葉などを通してお互いの良さを感じあえる題材が紹介されている。日本文教出版の1・2年下巻30・31ページ「ともだちハウス」では、協力して行うことで、満足感や達成感を得られるような題材が紹介されている。

[椋山委員]

- ・ 安全確保や事故防止の視点についても、図画工作では、配慮をする必要があるが、この点について各発行者の教科書はどのように取扱っているか。具体的に説明を願う。

[調査員代表]

- ・ 各教科書の5・6年下巻を使って説明する。開隆堂40・41ページで、特に安全指導について留意すべきことは、「安全マーク」とともに気をつけることを具体的に示している。日本文教出版22・23ページで、配慮すべき点を「気をつけよう」として示し、用具の安全な使い方や、活動場所の安全を確認することなどを具体的に示している。

[齋藤委員長]

- ・ では、本市の教科書としてふさわしいのはどの発行者になるか。その大きな理由は何か。

[調査員代表]

- ・開隆堂である。両者ともに、学習指導要領に基づき充実した内容であり、教科横断的な学習を一層進めている。しかしながら、各右ページの下に、「あわせて学ぼう」というコーナーを設け、他教科とのつながりをより具体的に示し提案がされている、開隆堂出版が本市の教科書にふさわしいと考える。

[齋藤委員長]

- ・他に質問はないか。

<なし>

[齋藤委員長]

- ・調査員代表、ありがとうございました。

<図画工作調査員代表 枚方市立平野小学校長 虎杖 利和 退室>

[齋藤委員長]

- ・先ほどの調査員代表からの報告や質疑応答、調査報告書等を踏まえて、何か確認しておくことはな

いか。

[齋藤委員長]

- ・開隆堂は、他教科とのつながりを、より具体的に示した提案がされており、また自分の考えを広げたり深めたりする場面においても、言語活動を一層充実させる工夫が見られること。さらに造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成して、子供たちが、図画工作の学習が日常生活につながっていることを感じとることができる、適した教科書であると考え。他の発行者にもよい特徴がそれぞれあるので、その辺りも併せて教育委員会に答申する。異議はないか。

<異議なし>

[齋藤委員長]

- ・他の発行者の特徴も含めて答申する。

**【種目名 保健】**

[齋藤委員長]

- ・調査員代表の入室を認める。

<保健 調査員代表 枚方市立殿山第二小学校長 山本 容子 入室>

[齋藤委員長]

- ・調査結果について、報告をお願いします。

<調査員より調査報告書に基づき報告>

[齋藤委員長]

- ・ただ今の報告の中で、質問はないか。

[十川副委員長]

- ・身近な課題に対して学びを広げ、深めるためには充実した資料が必要である。資料の効果的な活用において各発行者の特徴があれば、具体的に例をあげて説明願う。

[調査員代表]

- ・主体的・対話的で深い学びを通して自ら考え、判断し、行動できる児童の育成のためには、日常生活の中での身近な課題に、興味関心を持ち自らの学びを広げていくことは大切なことである。各発行者は、この趣旨に基づき作成をされている。5・6年生の教科書にて。「交通事故の防止」に対して、東京書籍は27ページ、大日本図書は26・27ページ、大修館書店は28・29ページ、文教社は26～31ページ、光文書院は28・29ページ、学研は30ページに取り上げられており、どの発行者もきづく・危険を予知するという学習の導入段階で写真やイラストを通して、自分事として課題をつかみ、グラフ・プチコメント・資料・QRコードなどを提示し、調べる・考える・話し合う・伝え合う・まとめる・生かす、というように学習が進められるように構成されている。

[椋山委員]

- ・学習指導要領においては、学習の基盤となる資質・能力の一つとして、言語能力の育成があげられる。保健においても身近な健康の保持増進について話し合うことなど、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動の充実が求められている。この点において工夫がみられる発行者があれば、具体的に例をあげて説明願う。

[調査員代表]

- ・どの発行者も、学習の中で「話し合う」活動を取り入れるよう配慮されていると思われるが、その中でも特徴的なものを2社説明する。学研の5年生の12ページ「心と体のつながり」では、まず、自身をふり返り、14ページでは、前ページでふり返ったことを元に「話し合い」、学びを生かすように、友だちの工夫していることも書き足しながら、自身の考えをまとめていくように学習が進められている。大日本図書の5年生の22ページ「けがや事故の原因」24ページ「学校や地域で起こるけがの防止」では、「話し合おう」の項で日常生活の中でのふり返りをしながら、自身の思いや考えを話し合っ、安全な生活をすることに結びつけるように配慮されている。

[齋藤委員長]

- ・本市においては、これまでも本市の「人権教育基本方針」を踏まえ、男女平等教育を推進してきた。その中でも、昨今、いわゆる性的マイノリティの児童・生徒の心情に配慮した教育の充実が求められている。この点について、特徴のある発行者はあるか。具体的に例をあげて説明願う。

[調査員代表]

- ・どの発行者においても、性についての心の多様性について紹介をしていたり、相談窓口の掲載をしたりしていた。その中で特徴的だったのは、2社である。東京書籍3・4年生の38ページ。性と自分らしさについて図とともに紹介されている。文教社3・4年生の31ページ。様々な場面を例で挙げながらその人らしさを大切にすることについて紹介されている。

[村上委員]

- ・1981年から日本人の死因の1位は「がん」であり、現在、日本人の2人に1人は、一生のうちに何らかの「がん」になると推計されている。本市においても、大阪府がん対策推進条例の趣旨を踏まえ、「がん」の予防につながる学習指導の充実・推進を図っているところである。生活習慣病の1つである「がん」を予防する教育は、小学生段階からの教育が重要だと考えます。「がん」の予防に関する教育という点で、特徴のある発行者はあるか。具体的に例をあげて説明願う。

[調査員代表]

- ・「がん」について、各発行者とも掲載の仕方は様々である。大修館書店は、6年生の61ページにインタビュー形式で、文教社は66ページ喫煙とがん死亡率の割合を、大日本図書は62ページ「がんの予防」と項を起こして、光文書院は52ページ「がんのことを知ろう」と項を起こして、東京書籍は60ページ資料「がんについて知ろう」と項を起こし、写真やわかりやすい文章表記で、そして、学研では61ページに、ほけんのはこ「がん」って、どんな病気?と提示し、Q&A方式の文章と図で、学習を発展させていくように配慮されている。

[牧村委員]

- ・3, 40年前の保健とはずいぶんと違ってきた。子どもの立場で教科書を見ると、新型コロナウイルスのことや薬物のことなど、今の問題にも多く触れられている。加えてカラーの資料が豊富であり、このような教科書で学べることがありがたい。選ぶことが困難なほど、どの発行者も魅力的である。

[齋藤委員長]

- ・本市の児童にとってふさわしい教科書を2社程度あげるとすると、どのようになるか。

[調査員代表]

- ・東京書籍と学研である。どちらも、学習指導要領の趣旨に基づき、児童が学習の見通しを持ちながら、主体的に取り組めるように配慮されている。また、「考える」「話し合う」活動が豊富に用意さ

れ、発展的学習への意欲も喚起されていると思われるからである。

[齋藤委員長]

- ・その中で強いて1社あげるとすると、どの発行者になるか。その大きな理由は何か。

[調査員代表]

- ・学研である。一時間の学習の流れが、3ステップで統一されていて、児童が学習の見通しを持ちやすいと思われるからである。また、自身の「つぶやき」もさっと教科書に書き込むことができ、それを元に友だちの話をきき、まとめの時に、より深く自身の考えを記述することができやすい構成になっているからである。

[齋藤委員長]

- ・他に質問はないか。

<なし>

[齋藤委員長]

- ・調査員代表、ありがとうございました。

<保健調査員代表 枚方市立殿山第二小学校長 山本 容子 退室>

[齋藤委員長]

- ・先ほどの調査員代表からの報告や質疑応答、調査報告書等を踏まえて、何か確認しておくことはな

いか。

<なし>

あ

[齋藤委員長]

- ・調査員からは、学研についての特徴を挙げていただいた。一時間の学習の流れが、3ステップで統一されており、児童が学習の見通しを持ちやすいであろうことや、「考える」「話し合う」活動が豊富に用意され、発展的学習への意欲も喚起されている点などがあつた。他の発行者にもイラストや資料が豊富に活用されているなど、よい特徴がそれぞれあるので、その辺りも併せて教育委員会に答申する。異議はないか。

<異議なし>

[齋藤委員長]

- ・他の発行者の特徴も含めて答申する。

**【種目名 家庭】**

[齋藤委員長]

- ・調査員代表の入室を認める。

<家庭調査員代表 枚方市立禁野小学校長 位田 真由子 入室>

[齋藤委員長]

- ・調査結果について、報告をお願いします。

<調査員より調査報告書に基づき報告>

[齋藤委員長]

- ・ただ今の報告の中で、質問はないか。

[服部委員]

- ・家庭科においては、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成が求められている。そのために、実生活と関連を図り、生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決する学習活動を効果的に入れることが必要である。児童がより主体的に課題に取り組むために、各発行者においてはどのような工夫がされているか。具体的に特徴を説明願う。

[調査員代表]

- ・例えば、6年生の学習の中に炒め料理を作るというのがある。東京書籍はP84, 開隆堂は、P88。東京書籍は、まず、「朝食の役割を考えよう」というめあてのもと、朝食は1日の始まりのエネルギーを得るための食事であることを知った上で、P86の「いためる調理で朝食のおかずを作ろう」で実際に炒め料理を作り、P91の「朝食から健康な生活を始めよう」で実際の生活に生かすために、まずは休日の朝食から取り組んでみようという流れになっている。一方、開隆堂はまずは、「ゆでる調理と炒める調理は何がちがうのだろう」ということを考え、炒めると、風味がよくなり、短時間でできるという特徴を知ったうえで、P90の「いためておかずを作ろう」で実際に調理し、P92で「朝食を食べよう」として、炒め料理の特徴を朝食に生かすという流れになっている。東京書籍は「朝食の役割」、開隆堂は「ゆでると炒めるの違い」という違いはあるが、どちらも、児童が主体的に考えたいくなる課題からスタートしているといえる。

[椋山委員]

- ・教職経験が少ない教員が増える中、家庭科は、実習もある教科として安全指導の工夫についても考慮する必要がある。安全・衛生に注意するといったこの点において、各発行者の特徴を、具体的な例をあげて説明願う。

[調査員代表]

- ・調理実習を行う際の安全・衛生について説明する。東京書籍はP10、開隆堂はP142。東京書籍では、

「身支度の仕方」として、具体的な行動がチェックできるようになっている。また、食物アレルギーの症状が「呼吸が苦しい」「目がかゆい」「せき」など具体的に書かれているので、アレルギーをもつ友達の様子にも配慮できるようになっている。それから、P11の右上にあるように、安全のマークが赤く囲まれ、ピンク色で彩色されているので、よく目立つようになっている。開隆堂では、実習前、実習中、実習後に分けて、注意点が書かれている。また、下段にあるように「安全と衛生」なぜそうするのかとQA形式で示すことで子ども目線により安全を意識できるようになっている。食物アレルギーについては、P17。特にアレルギーの多い卵料理を扱うところで、加工食品にも注意することが書かれている。

#### [十川副委員長]

- ・家庭科と親和性の高いものとしてプログラミング教育があげられる。情報技術の急激な進展を背景に、学習指導要領において、導入された小学校におけるプログラミング教育であるが、この点について、各発行者の特徴を、具体的に例をあげて説明願う。

#### [調査員代表]

- ・東京書籍はP146、147、開隆堂はP140、141。両者とも、プログラミングされた家庭用電化製品、洗濯機や炊飯器について取り扱っているが、開隆堂については、「ご飯とみそしるを同時に作るには？」として、生活に必要なプログラミング的思考の視点で、段取りを進められるよう書かれている。この視点はP122の下にあるように、「1食分の調理計画の例」の中でも取り上げられ、主菜と副菜、汁物、主食が同時に食べられるよう、「スクランブルエッグはなぜ、先に調理しないのかな？」と考えられるようになっている。

#### [服部委員]

- ・教科書は、すべての児童が学習しやすいよう配慮がなされていなければならない。「教科書のユニバーサルデザイン化」という観点で、2社の取扱いに、ちがいがあるか。

#### [調査員代表]

- ・両者とも、読みやすい文字で書かれている。東京書籍の特徴としては、例えば、P64の下にあるように、直接に教科書に書き込む欄には罫線が引かれ、書きやすくなっている。また、P113の中央、□囲みのところ、色だけで示すのではなく、その横に文字で黄、赤、緑と示しており、色覚に課題のある児童に対する配慮がなされている。開隆堂の特徴としては、どのページでもそうですが、一つの単語が行をまたがないようになっており、読み間違いを防ぐという配慮がなされている。

#### [栗村委員]

- ・卵アレルギーの子どもについて。教科書を通してアレルギーについて知って欲しい。子どもたちも、実際に、家庭科の授業を通して味噌汁や唐揚げ等も作ることができるようになる。家庭科という教科は生きていく力につながっている。主体的に学べる、子どもたちにとって分かりやすい教科書が選ばれて欲しい。



[齋藤委員長]

- ・ 2社のうち、1社あげるとすると、どの発行者になるか。その大きな理由は何か。

[調査員代表]

- ・ 両者ともに、工夫され、よい点があるが、強いて挙げるとすると、開隆堂である。理由は主に二つあり、一つは、実習の工程の見やすさである。ミシンの使い方を例にあげると、東京書籍はP72の中で、上、下、そしてP73に続くようになっている。一方、開隆堂はP40、41と同じ2ページを使っているが、横に流れるように工程がしめされており、説明も非常にシンプルで見やすくなっている。もう一つは、各題材のタイトルが、児童自身が主体的・対話的に学習をすすめられるようなものになっているということ。「なぜ、調理をするのだろうか」や「なぜ毎日食事をするのだろうか」「なぜそうじをするのだろうか」など、ただ、生活として漠然と行うのではなく、科学的な意味や根拠を考えながら、自分たちの生活をより良いものにしようとするところが、教科書としての大きな役割を担っていると考えられるためである。

[齋藤委員長]

- ・ 他に質問はないか。

<なし>

[齋藤委員長]

- ・ 調査員代表、ありがとうございました。

<家庭調査員代表 枚方市立禁野小学校長 位田 真由子 退室>

[齋藤委員長]

- ・ 先ほどの調査員代表からの報告や質疑応答、調査報告書等を踏まえて、何か確認しておくことはな

いか。

<なし>

[齋藤委員長]

- ・ 開隆堂は、子どもたちにとって、実習の工程が見やすく、また、各題材のタイトルが、児童自身が主体的・対話的に学習をすすめられるようなものになっているということ。例えば、「なぜ毎日食事をするのだろうか」「なぜそうじをするのだろうか」など、ただ、生活として漠然と行うのではなく、自分たちの生活をより良いものにしようとするところが、教科書としての大きな役割を担っていると、言う点で、適した教科書であると考え。他の発行者にもよい特徴がそれぞれあるので、その辺りも併せて教育委員会に答申する。異議はないか。

<異議なし>

[齋藤委員長]

- ・他の発行者の特徴も含めて答申する。

**【種目名 生活】**

[齋藤委員長]

- ・調査員代表の入室を認める。

<生活 調査員代表 枚方市立香里小学校長 千原 正敏 入室>

[齋藤委員長]

- ・調査結果について、報告をお願いする。

<調査員より調査報告書に基づき報告>

[齋藤委員長]

- ・ただ今の報告の中で、質問はないか。

[十川副委員長]

- ・生活科では具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力の育成を目指している。自分自身や自分の生活について理解を深め、必要な習慣や技能を身に付けるためには、資質・能力の3つの柱に即した単元の振り返りが大切だと考えるが、こうした振り返りにおいて、各発行者の特徴を具体的に教えてほしい。

[調査員代表]

- ・振り返りについては、各発行者それぞれに良い特徴が見られるので、各社の上巻を例に説明する。まず、東京書籍では、単元ごとに「〇〇をつたえよう」や「〇〇をつたえあおう」などが設けられ、各単元とも言語活動を意識した構成となっている。例えば、「ふゆをたのしもう」の単元でみると、96ページの「きせつのことをつたえあおう」では、これまでに学習してきた夏・秋のことも含めて、振り返る場面が提示されている。また、キャラクターの吹き出しや右下の挿絵から、家庭学習につなげるヒントも示されている。大日本図書では、上巻に「きもちマーク」が設けられ、児童の活動の満足度、心の動きを表現するようになっている。例えば3ページの「きもちマーク」は入学直後の児童にも無理のない振り返りを可能とするため、選択式になっており、単元が進むと、例えば17ページのように、自分で描くように工夫されている。学校図書では、学習や生活を振り返り、生活上必要な習慣や技能の習得を確かなものにするために「思い出してみよう」「ふりかえろう」が設けられている。例

例えば120ページの「1年生をふりかえろう」では、1年間で出来ることが増えたことについて気付かせ、さらに、「こんな気持ちも気づいたよ」として、心の成長についても触れているなどの特徴が見られる。教育出版では、単元ごとに「なにをかんじたかな」や「ぐんぐんはしご」、「つたえたいな」が設けられている。例えば48ページでは、遊びからの気付きに着目させ、自分自身について理解を深めるとともに、49ページ下段の「つたえたいな」で家庭とのつながりを意識させる工夫が見られる。また、ページ右側「ぐんぐんはしご」で自己評価を見える化している。光村図書では、全ての小単元に「ふりかえろう」が設けられていて、感情と思考・態度の面から振り返ることで次の学びに繋げられるよう工夫されている。例えば40ページでは、下段に「ふりかえろう」が、41ページには、対話の中で振り返る場面と、自分の言葉で振り返る場面が示されている。また、締めくくりとして「楽しい毎日につなげよう」が設けられ、単元の学びを日常生活に生かしたり、生活を豊かにしたりするためのヒントが提示するなどの工夫が見られる。啓林館では、学びの連続性を意識して、単元導入の「わくわく」、活動の「いきいき」、振り返りの「ぐんぐん」の3段階構成となっている。この流れは学習指導要領に学習過程の基本として記載されている「①思いや願いを持つ→②活動や体験をする→③感じる・考える→④表現する・伝え合う・振り返る」に沿った流れになっている。振り返りの「ぐんぐん」では、例えば60ページで、他教科等との関連を図りながら、言葉・絵・動作・ICTを活用した発表など多様な表現活動を例示している。また61ページ下段には、「ひろがるきもち」コーナーが設けられ、生活科での学びが日常生活に広がり、児童が自立し生活を豊かにしようとする姿が示されている。

#### [椋山委員]

- ・文章や写真、挿絵が人権的な配慮がなされていたことはさきほどの報告から理解した。教科書が多様な視点や文化的背景を反映し、すべての児童に包括的な学びを提供しているかどうかも重要である。身近な人々や社会について、自分との関わりで捉えられる工夫がされている発行者があれば、具体的に教えてほしい。

#### [調査員代表]

- ・掲載されている人物の写真・イラストでは、男女の比率に偏りが無いよう配慮されていたり、多様性を尊重した工夫がなされていたりと、各者様々な工夫が見られた。その中で、「全ての児童にとって学びやすい教科書」という観点で見た場合、3者に特徴が見られた。東京書籍では、多様な人々との触れ合いに関心をもてるよう、幼児や高齢者、障がいのある人、外国の人など、多様な人々と関わる活動場面が取り扱われている。また、外国にルーツを持つ児童への配慮として上下巻とも全ての漢字にふりがなが付されている点においても工夫がみられる。また、インクルーシブ教育の観点では、例えば下巻の49ページの黒板の端に、その時間の学習の流れを示したボードが例示され、授業のユニバーサルデザインにつ

いても配慮されている。大日本図書では、様々な家庭環境、家族構成、画一的な家族の形の例示とならないようにして、幼児や高齢者、障がいのある人、外国の人など、多様な人々と関わる活動場面が取り扱われている。また、国際理解の観点では、下巻の巻末で生活科の活動と関連する海外の用語の紹介や、日本の文化とともに海外の文化も紹介されている。啓林館では、人権尊重の観点から、写真やイラストは性別によって服装や役割が固定的にならないよう配慮するとともに、児童一人ひとりが他者を尊重しながら、互いに協力して学びを深めていけるように配慮されている。インクルーシブ教育の観点では、例えば上巻の126ページの「気持ちを伝えよう」で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりするためのソーシャルスキルトレーニングに関連する資料も掲載されている。また、国際理解の観点では、「デジタルたんけんブック」の68・69ページに外国のあいさつや外国語表記の看板などを掲載している。

#### [十川副委員長]

- ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」という観点で、各発行者の教科書をみたとき、特に工夫されている発行者について、具体的に例をあげて説明願う。

#### [調査員代表]

- ・教育出版では、二次元コードからリンクする「まなびリンク」を設け、児童の学びを深め、広げるようなコンテンツの充実が図られている。コンテンツは、動画・ワークシート・デジタル図鑑に分けられ、例えば、ワークシートを活用して、子ども同士、子どもと先生の間での意見交流などが想定されている。また、デジタル図鑑は児童の興味を引く鮮明な写真が用意され、自分で調べたいという自学自習の力を育むよう工夫されている。東京書籍では児童の興味・関心・意欲等を踏まえて具体的な例示や資料が随所に掲載されている。例えば、111ページには、1年間の自身の成長を表す多様な手法について例示されている。121ページ以降の「ほんとうのおおきさ いきものずかん」では実物大の生き物を掲載し、「デジタルずかん」では、児童の興味・関心に応じて、200種類以上の生き物を閲覧できるようにされている。また、活動や体験を通じて得た気づきを友達同士で伝え合う姿や、多様な他者と関わる姿が例示されている。例えば49ページには、具体物を用いた表現・共有する姿。下巻の28ページにはICT機器を活用した表現・共有する姿が例示され、発達段階に応じた表現方法についても配慮されている。啓林館では児童の気付きの質を高めるために「学びのキーワード」が示されている。例えば、74ページでは「ためす・くらべる・くふうする」といったワードをもとに考えるための多様な学習活動が例示され、児童が思考を働かせ、気付きの質を高めることができるよう配慮されている。また、「びっくりずかん」「がくしゅうずかん」「デジタルたんけんブック」などの豊富な資料により、児童自身が思いや願いを実現するために必要に応じて参考にしたり、個の状況に応じて教師が資料を提示したりできるように工夫されている。例えば、80ページ「どんぐりだいけんきゅう」では、「何種類あるかな？」という問いかけをすることで興味・関心を引き出す工夫もみられる。

[服部委員]

- ・本市においては、「幼保こ小架け橋プログラム」を昨年度から取り組み、5歳児から小学1年生までの2年間における枚方版架け橋カリキュラムを開発している。このことに係るスタートカリキュラムについては先ほど説明いただいた。一方、学習指導要領において、生活科は他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、教科横断的な視点や、3年生以降の系統的な指導が求められている。この点について、特に工夫されている発行者はどれか。具体的に例をあげて、説明願う。

[調査員代表]

- ・光村図書では、各単元は、課題を設定し、意欲と見通しを持ち、活動を行い、学びを深め、振り返る・つなげるという流れが見開き完結の構成になっており、他教科との合科的・関連的な指導のヒントが随所に示されている。また、身につけた資質・能力を3年生へしっかりとつなぐことを意識して、下巻の96・97ページには、2年生の学習の振り返りと、3年生の学習の一部を見開き一面で掲載し、3年生の学習のイメージを持ちながら、進級への期待を高めるよう工夫されている。東京書籍では、2年生で扱う下巻には「つながる」が加わり、他教科との関連を示して教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう工夫されている。下巻15ページ、51ページには国語や算数の記載があり、他教科で身につけた資質・能力を生かす場面を具体的に例示している。下巻102ページには、「つながる ひろがる」が示され、3年生以降の各教科へのつながりを意識した写真やイラストが掲載されている。啓林館では、60・61ページ、下巻の69ページには「合科的・関連的マーク」があり、児童にとっては、3年生以降の教科へのつながりを意識するきっかけとなり、また、教師にとっては生活科と他教科等との連携を図ることで、指導の効果が高まる工夫がされている。また、下巻末尾には「3年生へのステップブック」があり、2年間の生活科の学習を振り返る活動を通して、満足感や達成感を感じ、自信と意欲を持って3年生に進級できるよう配慮されている。

[齋藤委員長]

- ・本市の児童にとってふさわしい教科書を2社程度あげるとすると、どのようになるか。

[調査員代表]

- ・どの発行者の教科書もそれぞれに良い特徴があり、内容も充実しているが、強いて2社あげるとすれば、東京書籍と啓林館である。

[齋藤委員長]

- ・その中で強いて1社あげるとすると、どの発行者になるか。その大きな理由は何か。

[調査員代表]

- ・特に、この2社については甲乙つけがたいが、強いて1社あげるとすれば、啓林館である。先程も触

れたが、「めくり言葉」で「次の活動にむけての思いや願い」を示しており、児童の活動の連続性や広がりをサポートし、スパイラルに深い学びが実現できるように工夫されているところが、1点。さらに、2年間の生活科で培った資質、能力を自覚して、第3学年以降の未来への期待感を高め、自信と意欲をもって進級できるように工夫されている点がある。この2点において、啓林館の教科用図書がふさわしいと判断した。

[齋藤委員長]

・他に質問はないか。

<なし>

[齋藤委員長]

・調査員代表、ありがとうございました。

<生活科調査員代表 枚方市立香里小学校長 千原 正敏 退室>

[齋藤委員長]

・先ほどの調査員代表からの報告や質疑応答、調査報告書等を踏まえて、何か確認しておくことはないか。

<なし>

[齋藤委員長]

・どの発行者についても、子どもにつけたい力や目標・ねらいを明らかにし、それらを達成するための活動を行い、振り返るという流れになっていることが分かった。その中で、特に啓林館では教科横断型の視点や、幼児期との連結、3年生以降の学習へのつながり等の見通した切れ目のない学びを実現できるよう工夫されていることが分かった。他の発行者のよい特徴も併せて、教育委員会に答申する。異議はないか。

<異議なし>

[齋藤委員長]

・他の発行者の特徴も含めて答申する。

[齋藤委員長]

・道徳、理科、図画工作、保健、家庭、生活についての調査報告並びに審議が終了した。

各種目・教科ごとに確認させていただきましたご意見は、教育委員会に答申としてまとめさせていただく。答申の様式については、委員長の方に一任していただけるか。

<異議なし>

[齋藤委員長]

- ・異議なしのため、こちらの方で用意をして、責任をもって、教育長へ答申を行わせていただく。  
なお、今月下旬に実施予定の教育委員会会議において教科用図書の採択が行われ、採択事務が終了した後は、当選定委員会委員の所属・氏名及び議事録は、本市情報公開条例にもとづき、公開対象となるため、念のため申し添える。最後に、選定に係ることとして、支援学級における教科用図書について、担当に説明を求める。

[教科書担当]

- ・支援学級における教科用図書については、文部科学省より送付された教科用図書目録に掲載されている教科書のうちから採択すること、または、学校教育法附則第9条により、文部科学大臣の検定を経た教科用図書、または、文部科学省著作の教科用図書以外の図書、その他の教材で、有益適切なものは、これを使用することができるとなっている。例えば、ボランティア団体が作成している拡大教科書や点字教科書も含まれる。現在、教育委員会事務局で、これらの教科用図書を必要とする児童・生徒の把握に努めているところであり、必要とする児童・生徒が判明した時点で、教育委員会において採択することになる。

[齋藤委員長]

- ・只今の担当からの説明があったように、必要とする児童・生徒が判明した場合、教育委員会で採択していただくよう議案提出の手続きをとるため、ご了解をお願いする。
- ・以上をもって、本日の予定はすべて終了した。答申をまとめる等の事務的な内容は残っているが、委員の皆さまのご協力により、本選定委員会の担任する事務を果たすことができた。

(5) 閉会の挨拶

[十川副委員長]

- ・長時間にわたり、令和6年度使用小学校教科用図書の選定のために様々な角度から、熱心なご検討をいただき、感謝申し上げます。おかげ様で、来年度から本市の児童が使用する最良の教科書を採択すべき教育委員会に対して答申する、当選定委員会としての一定の意見をまとめることができたと思っている。保護者の代表として牧村様、栗村様にも加わっていただき、充実した選定委員会を行うことができた。重ねてお礼申し上げます。

[齋藤委員長]

- ・これをもって、第4回選定委員会を終了する。